# 心のふれあう豊かな人権尊重のまち

問 生涯学習課　社会教育係　☎22-1154

令和八年度　垂井町人権啓発作文　優秀賞

## 個性を認め合える社会に

垂井小学校　六年　小寺　真歩

私は、スカートをはくのがきらいです。なぜかと言うと、足が見えるし、足がスースーして気持ち悪いし、ズボンよりも動きにくいからです。そこで、私みたいにスカートをはきたくない女の人はいるのか気になり、調べてみました。調べてみると、私と同じ思いの人はたくさんいることが分かりました。ズボンの方が良いと言った人の理由は、次の三つに分けることができます。

一つ目は、ズボンのほうが動きやすく、足元も冷えることがないなど、実用的で快適であるという実用性。

二つ目は、自分の足の長さや太さ、肌を見せることへの抵抗感があるから。

三つ目は、周りの人から女性として特別あつかいされたくない、自分の好きな格好を貫きたい、女性らしさではなく、実力で勝負したいなど自己表現への意識。

私は三つともなるほどと思いました。特に、自分の好きな格好のスタイルを貫きたいという考えに共感しました。

ある日兄に、

「女の人はスカートとズボンのどちらとも選べていいよね。スカートをはいている男の人はまれだよね。女の人の方が選択肢が多くていいよね。」

と言われました。私は兄に言われるまでは、男の人はかっこいいズボンをはけるから男の人の方が良いと思っていました。しかし、兄の話を聞いて、スカートをはきたいと思っている男の人は、女の人の方が良いと思っているのかなと感じました。

今の社会では、男の人がスカートをはくと、周囲から「変わった人」「女装」と決めつけられてしまうので、私がズボンをはくことよりも、ずっと難しいことだと思います。でも、私は男の人がスカートをはいても、良いと思います。服の役割は、身体を守るものでもありますが、自分らしさを発揮したり、モチベーションあげたりするものでもあると思うからです。私は、自分の好きなものや、お気に入りのものを持っていただけでやる気が上がります。それは、服装も同じで、自分の好きな服を着ているときは、やる気が出て、勉強や仕事もはかどります。だから、男の人はズボン、女の人はスカートではなく、自分のモチベーションが上がる好きな服装をすれば良いと思うのです。

服装だけではありません。もし、自分が好きなものを「変だ。」と言われたら、悲しい気持ちになるし、反対に、「あなたらしいね。」と言われたら安心できます。だから私は、見た目や決めつけで人を判断しないようにしたいです。そして、友だちの考えやちがいを認められる人になりたいです。一人一人の個性を大切にすれば、だれもが安心してくらせる社会に近づくと思います。わたしは、そんな個性を認め合える社会をつくっていきたいです。

ひまわりの花言葉は“献身”「人権の花」に選ばれています。